

モノづくり 商品開発支援事業

モノづくり企業の商品開発をデザインで応援します！

公益財団法人岐阜県産業経済振興センター（以下「産経センター」という。）では、企業と協働して実践的なデザイン商品開発をとおして、県内のモノづくり企業に対し、新商品開発に挑戦する機会を提供することで、産地・企業のビジネスモデル改革や体質転換を促進し、また国内外に発信できる商品の強化に繋げるため、本事業を実施します。

募集期間

平成 28 年 4 月 22 日 (金)
)
 平成 28 年 5 月 31 日 (火)



募集内容

本事業では、県内のモノづくり事業者の意欲的な商品開発プロジェクトを対象に、産経センターが選定したデザイナーに、デザイン開発等を委託します。
 デザイン開発の支援を受けることで、付加価値の高いモノづくりや事業者のビジネスモデル改革、国内外に発信できる商品強化に繋がるプロジェクトを募集します。

応募資格

岐阜県内に事業所を有するモノづくり事業者（自社にて製造もしくは商品企画を行う法人又は個人事業者及びそれらのグループ等）で、商品開発及びビジネスモデル改革に意欲があり、デザイン開発の支援を受けることによって年度末までに商品化又は商品化に向けた試作品を完成することができる者としてします。

問い合わせ

公益財団法人 岐阜県産業経済振興センター 産業振興部 振興課 担当：日比野・小牧
 〒500-8505 岐阜市藪田南 5-14-53 ふれあい福寿会館 10F
<http://www.gpc-gifu.or.jp/> tel. 058-277-1079 fax. 058-273-5961

応募方法

まずは、応募前に担当までご連絡ください。

募集開始後に、産経センター HP に募集要項を掲載いたします。参加申込書をダウンロードし、産経センターまで参加申込書と事業概要資料（会社案内等）を持参又は郵送により提出して下さい。

※ グループでの応募の場合は、応募者として代表の実施主体を1者選定していただき、グループ参加者のリストと全員分の事業概要資料（会社案内等）を提出してください。

※ 今回は10プロジェクト程度を採択予定です。

※ 郵送の場合は5月31日必着でお送りください。

審査方法

応募案件について、①商品開発コンセプトのメッセージ力、②デザイナー活用方法の有効性、③事業実施スケジュールの確実性、④事業者の将来ビジョンや目標の明確性を審査のうえ、採択プロジェクトを決定します。

備考

- 採択プロジェクトについて、企業名、プロジェクトの概要等を産経センターホームページ等で公表します。
- 採択された各プロジェクトには、産経センターの事務局が運営に携わります。
- 各プロジェクトのデザイン開発支援に関わるデザイナーの経費については、1年の業務委託料として産経センターがデザイナーへ直接支払います。
- 本事業におけるデザイナーとは、商品開発に係る設計・デザイン・プランニング・ディレクション等の事業を営む法人または個人事業者をいいます。
- 試作品の製作にかかる材料費等の諸経費ほか、当初計画したデザイナーへの委託業務内容以外の業務に発生する費用などについては、支援対象者の負担とします。
- また、産経センターとデザイナーとの契約終了以降は支援対象者との直接契約となり、契約継続の場合に発生する費用などについては、支援対象者の負担となります。
- 当該意匠権を使用した商品を独占的に製造販売するための対価の支払いについては、支援対象者とデザイナーが協議して定めるものとします。
- 本事業の事業効果を測るため、支援対象者は、本事業を通じて開発した商品の販売・売上実績を、事業終了後5年間、産経センターに報告するものとします。

事業のながれ

1 参加企業の募集・決定
(4/22~5/31)
○ 支援対象者(プロジェクト)の募集
(6月中旬予定)
○ 応募者審査
(6月予定)
○ 採択プロジェクトの決定
(6月予定)
○ 説明会・ミニワークショップ
プロジェクト始動に向けての心構えなどを説明します。
各プロジェクト1名は必ずご参加ください。

2 デザイナーの選定
(6月中旬~7月中旬予定)
採択プロジェクトごとにデザイナーを選定し、産経センターとの間でデザイン開発業務に関する1年間の委託契約を締結します。

3 プロジェクト遂行
(6月中旬~2月下旬予定)
支援対象者・デザイナーによる商品開発プロジェクトにおいて試作品開発を行っていただきます。

4 試作完成
(3月下旬予定)
各プロジェクトの試作品を産経センター事務局が確認します。

5 求評会
(翌年度)
商品をバイヤー等に見て頂き意見を聞く機会を設けます。

過去の事例



「Fertile Interior Box」
壁面用タイルを組み立て式のボックスにデザインし、インテリア用品として新しい販路の開拓を目指す。
企業：有限会社 鈴研・陶業
デザイン：MI_Project



「pomme」
消費者の使用シーンを考え商品づくりに取り組んだ。素材やカタチなど細部にこだわり、企業にとっては新しいチャレンジの連続であった。
企業：有限会社 志津刃物製作所
デザイン：paper design works



「忘れな盆」
飛騨高山の伝統技術を現代のライフスタイルに合った商品にするという難題に挑み、国内だけでなく海外にも販路を拡大している。
企業：TS産業
デザイン：(有)後藤デザインオフィス



「Party Tower」
紙皿という脇役の商品をデザインをプラスすることで、パーティーの主役にするという大胆な商品戦略を行った。
企業：アートナップ株式会社
デザイン：加賀田デザインオフィス